

あずかった支援物資を地震被災地の新潟県中越に届けて、昨夜おそくに戻りました。とりいそぎの報告です。

たった1日だけ 中越支援の現場から

足は、茨城農民連の大型ワゴン車。北茨城までは産直ネットの奥貫さんが運んでくれました。

常陸野農民センターや鹿行農民組合、日立のおおぞら学童クラブ、高萩のコーヒー店モンブランさんなどからの支援物資を積み込み。さらに県北農民センターでは、那珂町の寺門さんの米を大野さんが受け取りに行ってくれたり、北茨城市の伊藤さんがサトイモを掘ってくれました。

茨城農民連の大会などで寄せられた義援金ももって、出発は23日の夕方でした。

会津盆地の夜景などを見ながら高速道を急ぎました。ちなみに、あらかじめ市から「災害派遣等従事車両証明書」という書類を発行してもらっておいたので通行料金は無料になりました。

新潟市内で仮眠？を取り、事前の打ち合わせどおり翌朝7時、新潟農民連の石橋さん宅に到着しました。ここで荷物のなかから米を下ろし、残りは日本共産党が設置している新潟県中越地震全国救援センターに届けることになりました。

このセンターでは、全国から寄せられるさまざまな救援物資を、種類ごとに仕分けし、必要な人に届けるシステムができています。というと機械的ですが、じっさいには、1人の若い女性がてきぱきと采配をふるっていました。聞けば茨城県

守谷市から来ている人で、でも「茨城県内では笠間市より北には行ったことがないんです」とか。

荷物を下ろし終えた「茨城から4名」（私たちのこと）は、神奈川県横須賀市から来て4日目という女性と、「ただ長くいるだけなんですけど一応リーダーということになっています」という山梨県塩山市の女性のチームに配属になりました。“支援物資お届け・被災者聞き取り隊”だそうです。

支援といっても罹災住民から要請があるわけではありません。被害の大きな地域に勝手？に出かけていって、その町会長さんなどを訪ね、適当な場所に荷物を広げて支援物資を配布する旨の了解を取り、そしてハンドマイクで呼び込みをするのです。



今回は、右から、すずき産地のご近所の鈴木一さん、大内トモちゃん、学校をさぼった鈴木はると君（高2）と、計4名で参加しました。

同時に、一軒一軒を訪ねる手分けもして、いま困っていることや行政への要望など聞き取りもします。

というような活動を午前と午後、2カ所とも小千谷市で取り組みました。一カ所では、たまたま声をかけたお宅が民生委員をなさっている方で、周囲に電話をかけて人を集めてくれました。もう一カ所は、小千谷市の中心商店街の裏手の住宅地でしたが、「こうした支援物資をいただくのは初めてです」と感謝の声もいただきました。

ハンドマイクで呼び込みに歩いていると、すれちがう多くの人が、支援物資を受け取るわけではなくても、深々と頭を下げってくれるのが印象的でした。



小千谷市桜町で

(写真はウラ面にも)

すずき産地からは、古代米を2号ずつ詰めた小袋を100袋くらい持って行きました。こんな ↓ ラベルを付けました。

スプーン1杯の元気 あずき産地の古代米

「農業にあおはない。でも、あさってがある」とイキがりながら、茨城県の北のはずれで百姓をしています。農薬も化学肥料も使わないで栽培した古代米。ご飯をたたくときにスプーン1杯くらい混ぜて下さい。もっと食べたいときは、いつでも遊びに来て下さい。
茨城県北茨城市 あずき産地 <http://www.suzuki31.com>



被害家屋の撮影は遠慮しようと思ったのですが、「撮っていってくれ」と。

地震発生時のようすや、壊れてしまった家屋・家財類の話を延々と語り、そして支援物資へのお礼とともに、「話を聞いてくれてありがとう」。そんなふうにも言ってもらえました。



私事で恐縮だけど、夜おそくに新潟から戻ったら、玄関に「おかえり」の貼り紙。すでに寝ていた次男(小4)が書いたもの。気持ちは兄貴といっしょに救援に行っていたのかなあ・・・



壊れた瓦を積み込んでいたら、地面が陥没してトラックが落ちてしまった、これも2次災害か。